

令和元年9月 データから見た業界の動き

■ 概 況

9月の山梨県内のD I 値は、全体で売上高は▲22ポイント（前年に比べ▲16）、収益状況は▲12ポイント（前年に比べ▲12）、景況感▲16ポイント（前年に比べ▲14）となり、いずれの項目とも昨年より悪化している。

製造業では、売上高▲15（前年に比べ▲10）、収益状況▲15（前年に比べ▲10）、景況感▲20（前年に比べ▲20）と前年に比べ悪化したが、先月との比較では収益状況(+15)、景況感(+10)共に改善している。

金属製品製造業界では昨年秋以降、米中の貿易摩擦による中国の景気減速や日韓の関係悪化の影響から、受注が減少傾向にある。また、消費増税による国内需要の減退が進む懸念があるとの報告の一方で、食料品製造業では順調に推移しているとの報告があった。

非製造業では対前年比で売上高▲27（前年に比べ▲20）、収益状況は▲10（前年に比べ▲13）、景況感▲13（前年に比べ▲10）と、製造業と同様に、いずれの項目とも昨年より悪化している。特に売上高は前月と比較すると24ポイントと大きく悪化した。

電気機械器具小売業や設備工事業では、消費増税前の駆け込み需要から売上高増加の報告があった一方、美容業や軽減税率対象品目を多く扱う小売業（青果）では駆け込み消費は見られなかった。宿泊業においては、天候不順の影響から利用客のキャンセルが増え、売上高が減少したとの報告がされた。

業種・業界を問わず、中小企業者は人手の不足により仕事量の抑制をせざるを得なく、これに伴う売上減少、又は後継者不在による将来的な事業継続に危機感をいただいている声が未だ多く、加えて消費税増税による消費の冷え込みの心配もあり、先行きに明るい兆しは見えない。人手の確保と人材の育成については具体的な施策が望まれる。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工業）	ホテル・レストラン・居酒屋向けは前年並みだが、ギフト・おせち関係は低調であった8月から回復し、全体の売上は前年同月比で112%。
食料品（洋菓子製造業）	国内外の積極的な店舗展開と天候に恵まれたことから、冷菓の売上が順調に推移し売上高は前年同月比112%。 人口減少や少子高齢化から市場は縮小している。高齢者向けの新商品開発にむけた取り組みが望まれる。
食料品（酒類製造業）	天候不順によりワイン原料となるブドウの品質低下が懸念されたが、ブドウの品質は良さそうである。
木材・木製品製造	求人募集を行うが、応募・問い合わせ共がない状況。人手不足が課題である。

印刷・同関連業	用紙・インキの価格高騰から収益が圧迫されている。また、デジタル化によるペーパーレス化の進行、ネット通販印刷の台頭が生産設備を有する組合員企業へ影響を及ぼしている。
窯業・土石（砂利）	昨年の台風で被災した峽南方面の採取場が現在も骨材確保に影響し販売価格が高騰している。
窯業・土石（山碎石）	工事量の減少からコンクリートの材料となる碎石の出荷量が減少し、売上高は前年同月比で13%悪化した。また碎石を運搬する車両数の減少や、過積載車両への罰則強化から運搬コストが高騰、併せて販売数量が減少したことから収益状況も悪化している。リニア新幹線関連工事に期待している。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	米中の貿易摩擦の長期化、世界経済の減速に加え、消費増税の影響から更に景気の減速が進むと考えている。
一般機器 （工作機械部品加工業）	米中貿易摩擦の影響から、組合員の中からは売り上げが減少しているとの声がある。
電気機器 （電気機械部品加工業）	例年は下半期になると受注件数が伸びてくるが、今年度は8月から9月にかけて更に悪化している。
宝飾（研磨）	香港ジュエリーショーは前年と比較すると低調であった。
宝飾（貴金属）	消費増税前であったが受注の増減はなく推移した。

● 非製造業

卸売（紙製品）	古紙の在庫は、国内の需要の低迷、中国への輸出の禁止からオーバーフロー状態。売上高は前年同月比で80%悪化した。
卸売（ジュエリー）	香港フェアはデモの影響から来場者が減少し、売上高は前年同月比で10%悪化した。
小売（青果）	取り扱い商品の多くは軽減税率の対象品目となるために消費増税前の駆け込み消費は無かった。また、入荷物の少なさもあり、売上高は前年同月比で6%減少した。
小売 （電気機械器具小売業）	消費増税前の駆け込み需要から売上は前年同月と比べ50%増加した。反動減が懸念される。
宿泊業	9月は週末に雨が降ることが多く、宿泊客のキャンセルが見受けられた。秋の観光シーズンに期待している。
美容業	消費増税前の駆け込み来店客数の増加を期待したが予想が外れた。組合員事業所のキャッシュレス決済設備導入は進んでいない。
一般廃棄物処理	事業承継に課題を抱える組合員が増えてきた。地域住民のライフラインを守るため、安定し事業を継続させていかなければならない。また緊急時の対応策を平常時に検討しておく必要性を感じている。
警備業	受注はあるが、人手不足と働き方改革の取り組みにより仕事の受注を抑制しなければならず、売上高は減少した。しかし、取引状況は好転しており収益状況は落ち込むことなく昨年同月並みであった。警備員の労働環境を改善し、人手の確保と受注抑制の回避につなげて行きたい。

建設業（総合）	前年同月比で件数21%、請負金額17%とそれぞれ減少した。9月累計でも件数10%、請負金額は9%減少し前年度を下回る状況が続いている。
建設業（型枠）	県内の工事量は堅調に推移しているが、組合員からは公共事業の減少や民間の設備投資の減少による来年の仕事に対し不安の声が多く上がっている。
建設業（鉄構）	県内の工事物件が少なく、主に首都圏の物件に依存している状況である。県内の物件に頼っている企業では苦慮している。鋼材価格が値下がり傾向にある。
設備工事（管設備）	建築着工統計によると新設住宅戸数は増加しているが、消費増税を見据えた駆け込みの影響が考えられるため今後の動向に注視していく。
運輸（タクシー）	若い人材の雇用が無く引き続き対策が求められている。消費増税による乗車を控える傾向がどれほどになるか懸念している。
運輸（トラック）	消費増税後の消費意欲の減退等による物流の減少を懸念している。不安定な中東情勢による原油価格の高騰による経営への影響を危惧している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2018/9	2019/8	2019/9	2018/9	2019/8	2019/9	2018/9	2019/8	2019/9
売上高	-5	-15	-15	-7	-3	-27	-6	-8	-22
収益状況	-5	-30	-15	3	-3	-10	0	-14	-12
景況感	0	-30	-20	-3	-10	-13	-2	-18	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

